

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年3月27日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671400150
法人名	医療法人 浩愛会
事業所名	グループホーム ひまわり苑
所在地	鹿児島県垂水市錦江町1番地240 (電話) 0994-32-6166
自己評価作成日	令和6年3月2日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和6年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は海沿いに面しており、錦江湾、桜島を一望できる景色の良い事業所です。事業所理念である「ゆったり、楽しく、自由に自分らしく暮らせる環境を目指す」ことを念頭に、入居者様お一人お一人の生活ニーズに合わせた生活ニーズに心がけています。

庭には大きな畑が二つあり、入居者様に教えて頂きながら、入居者様、職員と一緒に、野菜の栽培、収穫、そして一緒に食するという流れをお互い感じ合い、楽しみややりがい共有しています。

事業所の母体がクリニックであるため、医療面においても迅速な対応が可能になっています。

職員の年齢層は幅広いが、仕事面で意見がしっかりと言い合えるように、普段からのコミュニケーションは積極的に行い、風通しの良い、入居者様にとって自分たちも環境であることを自覚しながら、日々職務を行っています。

法人が実施している「介護職員初任者研修」「実務者研修」もあることから、職員の資格取得の環境も充実しており、職員のスキルアップがしやすい環境です。またスキルアップの為、すべての職員が認知症介護実践者研修修了者であることから、認知症介護に対して、日々追求し、パーソンセンタード・ケアを目指し、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、錦江湾や桜島が望める風光明媚な垂水市錦江町の海岸沿いの一角に、小規模多機能ホームや「グループホームまごころ」に併設して平成16年に開設されており、これらの事業所は日頃から情報の共有に努め、会議や研修、防災訓練の合同実施や緊急、災害時の協力の体制を構築している。周辺には葬祭場やAコープ、青果卸市場、個人住宅があり、少し離れた市の中心地には市役所や小・中学校、交番、郵便局、金融機関、医療機関、多種の商店、個人住宅等が建ち並んで利便性に恵まれた環境である。

管理者及び職員は、開設時に作成したホームの理念に「ゆったり、たのしく、自由に、自分らしく暮らしたい」を掲げ、ホールに掲示し、毎月のケア会議や日々の申し送り等で理念の意義を確認しケアが実践されているかなどの意見交換等を行って認識を共有し支援に努めている。日頃から対話や寄り添いの姿勢で利用者の思いの把握に努め、残存能力や自己決定を尊重しながら、安全で急かさない、その人らしい生きがいのある日々となるようなケアに取り組んでいる。利用者や家族からの要望や意見等にも迅速に対応して改善を図っており、信頼関係を築いている。

管理者及び職員は、利用者が家族や地域との関係の継続を大切にできており、コロナ感染症が5類に移行したのを機に、家族や友人との面会や周辺の散歩、訪問美容、ドライブによるコスモスや菜の花の花見、実家のミカン狩り、家族との外出や外泊、一時帰宅等に感染予防を徹底しながら取り組み、農産物等も日常的に頂いている。住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアの相談や施設見学等にも丁寧に対応するなど円滑な交流が図られており、これらの交流や外出を利用者は楽しみとしている。今後も感染状況を把握しながら、家族や地域との交流の機会を増やしたい意向である。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所開設時に職員と話し合いながら作った理念である。理念に基づき会議等でも話し合いをしながら理解を深めようとしている。	ホームの理念に「ゆったり、楽しく、自由に、自分らしく暮らしたい」を設定し、ホールに掲示しパンフレットにも記載して周知を図っている。毎月のケア会議や日々の申し送り等で理念に沿ったケアになっているか等の視点で振り返りや意見交換等を行いながら日々の支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣に住宅が少ない為地域との連携が難しい場面もあるが、町内会に参加しています。入居者様の知人来訪もあり交流している。	コロナ化による自粛を徐々に緩和し、家族や友人との窓越しの面会や散歩時の挨拶、通院、訪問美容、家族との外出や一時帰宅等を実施し、農産物の差し入れも頂いている。町内会に加入して回覧板等で地域の情報を把握し総会の案内も受けており、地域の祭り「おんだんこら」の見物、海岸の清掃活動にも積極的に参加している。住民から寄せられる高齢者福祉や認知症ケアに関する相談や施設見学等にはパンフレットも活用して丁寧に対応しているが、ホーム内でのイベント時の家族や地域住民の参加やボランティアの受け入れ、買い物等は現在も自粛中である。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	相談は随時あれば受けています。オレンジカフェ等開催し地域の方々に対し認知症の理解を深める為に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での行政の参加をしてもらい入居者様の報告や施設での活動報告を行っているアドバイスを貰いながら向上できるよう努めている。	書面会議が続いていたが、現在は市担当者とホームの職員で隔月毎に開催している。ホームの現況や行事、ヒヤリハット、感染症対応等の報告を行ない、制度の改正等の情報を貰っている。職員は会議内容を会議録等で共有し業務の改善やサービスの向上に努めている。感染予防に務めながら従来のように家族や地域代表の参加を検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者から連絡や訪問の機会もあり、来訪時には意見や情報の交換を行っている。また、市が行っている研修等積極的に参加し連携をとれるように努めている。	市役所の窓口や電話で介護保険や各種制度、感染症対応の相談や協議、情報の交換を行うなど日頃から協力関係を築いており、担当者には運営推進会議への出席や来訪でホームの状況の理解を得ている。日頃から市からの情報の把握に努め包括支援センターの研修にも積極的に出席して運営やケアの改善に繋げている。現在、生活保護受給中の利用者はいない。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で、権利擁護や身体拘束についての勉強会を実施しており職員の理解を深めている。身体拘束高齢者虐待防止委員が中心となり事例を用いながら対応についての話し合いを行っている。	身体拘束や高齢者虐待については、日頃のケアの中やユニット会議時にケアの振り返りや意見交換等も行って認識を共有している。身体拘束適正化の指針を整備し委員会も年6回開催しており、身体拘束や高齢者虐待、権利擁護の研修も法人全体やホームで実施して認識を深めている。利用者の尊厳や人格、思い、生活ペースを大切にその人らしい自由な生活へのケアに取り組んでおり、昼間は玄関等の施錠は行わず、スピーチロックや不適切なケアにはその都度助言指導する等日頃から改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を法人全体で行っており、ホーム内でも職員同士注意や場面で話し合いを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内で権利擁護の勉強会は必ず1年に1回行っている。その時限りにせず職員同士勉強会の中で意見を言いながら深めようと努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけながら説明を行っている。できるだけ専門用語を使わずにわかりやすく伝えるようにしている。家族の思いも聞きながら入所後のリスク等についても話している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会及び運営推進会議にて意見があれば聞くようにしている。コロナ禍になってからは、直接的な会議参加などは控えて頂いているため、電話にて意見などは聞くようにして、それを推進会議にて報告するようにしている。	日頃から利用者や家族とはコミュニケーションを心掛け、忌憚なく意見・要望を出して貰うように努めている。利用者の思いは日常の会話や表情、仕草等で把握し、家族からは面会や電話、ライン、手紙、担当職員の電話による生活状況の報告、「ひまわり苑便り」で近況を伝えながら要望等を頂いている。出された意見等は職員全員で協議して改善に努めており、結果は利用者や家族にも報告している。中止している家族会の再開を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要な対応や業務の中や毎月のカラオケ会議等で話し合いを行っている。その効果についても検証し修正を行っている。意見や提案があった場合には必ず職員間で共有している。	管理者及び職員は、日頃の業務の中やケア会議、年3回の個別面談等で気軽に意見や要望、悩み等を出し合い、全員で協議して改善を図っている。管理者は日常的にケアへの助言指導や休憩時間（13時から1時間）の確保等に努め、勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情にも配慮して働きやすい職場づくりに取り組んで職員との信頼及び協力関係を築いている。法人は初任者研修や実務者研修の実施機関になっており殆どどの職員が有資格者である。インドネシアからの技能実習生1人が在籍して支障なく就労している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者はホームを訪れた際入居者の体調や変わった事がないか聞いている。法人でも資格取得の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの経験年数や資格に合わせて研修に参加できるようにしている。法人としても新人教育に力を入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くの同業者とも連絡を取り合い情報交換を行っている。職員同士が交流する場も増えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に家族や本人と話してその人の価値観や生活歴を聞き取るようにしている。その中で家族の思いや悩みを知る。知りえた情報は職員全員で共有を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に話をするときに家族の悩みや思いを聞き取るようにしている。何か不安があった場合には声をかけてもらえるような雰囲気づくりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族がその時困っていることや不安に思っていることに対し職員と話し合い実行できるものは迅速に行うようにしている。その後も職員間で意見を出し合いながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを聞き安心して過ごしてもらえるように日々関係を築くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来られた際には状態の報告を行っている。家族の思いに配慮しながら伝えるようにしている。月1回電話連絡をとり家族との関係を築くようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所時の聞き取り、家族の来訪時利用者との日常会話などから地域との関わりを把握しドライブ等で同行し地域の人々の関わりを行っている。	利用者毎の家庭環境や馴染みに関する情報を把握し、家族や友人との面会や日常的に外気浴や周辺の散歩、訪問美容、通院、家族との外出や一時帰宅、ドライブによるやコスモスやひまわりの花見、電話や手紙の取り次ぎに努め年賀状の送付も支援している。今後は感染対応に努めながら買い物やボランティアの受け入れ、弁当持参のドライブなど馴染みの人や場との関係継続の機会を増やしたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や席の配置を考え変化があった場合は見逃さないようにしている。関係悪化する前には職員が間に入り関係修復を図っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方は定期的に面会を行っておりその後の様子も把握するようにしている。退所されたご家族もホームへ立ち寄られ相談されることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の思いや希望の把握に努め、本人の暮らしに何が最良であるか、また職員の気づきを毎月のケア会議で話し合い本人の気持ちに寄り添ったケアに努めている。	重度化によりコミュニケーションが難しい利用者もいるが、日頃の会話や仕草、独自のサイン等で思いの把握に努め、家族にも確認しながら、その人の能力を活かした安全で生きがいのある暮らしの支援に努めている。利用者の趣味や楽しみ事（はり絵、パズル、音楽やテレビ視聴他）や家事（炊事の補助、テーブル拭き、菜園の植え付けや収穫他）の取り組みも体調等に配慮しながら個別に支援し、これらの成果には評価や「有難う」等の言葉で自己肯定感の修得を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に話を聞いているが、それ以降も日々の生活の中で新たな情報も出てくるので会議の中で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの価値観に沿った生活を送れるようにしている。職員も利用者のできること、できなかったこと小さな変化も見逃さないように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族にその都度要望や話を聞いている。ケアの経過は実績記録に記入してもらい計画の見直しや修正を行っている。	利用者や家族の意向を把握し、主治医の指示や毎月のモニタリング、カンファレンス時の職員の意見、日々の記録等を基に、習慣や楽しみ事等にも配慮した利用者主体の計画を作成して改善に努めている。利用者の状況に変化が生じた際は計画を実態に沿って変更している。ケアの実施状況はチェック表や業務日誌等で共有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・排泄チェック表食事量・実績記録を書いてもらいその中で変化を読み取るようにしている変化があった場合情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅の要望や外出などは、臨機応変に対応している。特に帰宅要望においては、ただ単に帰宅することが目的ではなく、管理していた山や畑などできるだけ、家族の了承を得て実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は近隣のスーパー、葬儀屋と共に避難訓練などを実施していたが、近年ではできていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体病院をかかりつけ医としており月2回往診を受けている。現在2名別なかかりつけ医だが往診もあり他の病院とも連携をとれるようにしている。	本人・家族が希望する医療機関での治療を支援しており、現在は協力医療機関（法人母体）や従来からの医療機関での治療を継続している。定期的な訪問診療（月2回）や通院を実施し、他科受診（眼科、整形外科）は家族が主体となって取り組み、歯科も必要時に訪問診療で対処している。看護師の資格を有する職員を中心に健康管理や衛生、感染予防対応に努め、主治医との医療連携の体制も構築して適切な医療を受けている。健康状態は家族にも随時報告して共有を図っており、利用者及び家族の信頼、安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化があった場合には、すぐに法人外来看護師に連絡を行い主治医の指示を仰ぐようにしている。またホーム内看護師にもすぐ相談し対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には情報提供をすぐ行うようにしている。退院時には早い段階からアプローチを行い連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルケアはホームで対応できる。必要時には家族に説明し同意を貰う利用者の段階に応じて本人やご家族とも話し合い、母体病院と連携しながら行っている。	看取りについては「看取り対応の指針」を整備し、利用開始時に利用者及び家族にホームの対応を説明して同意書を貰っている。重度化した時点で再度家族の意向を確認し主治医や訪問看護師と連携して可能な限りのケアをチーム体制で取り組んでおり、これまでも多数の看取りを実施している。看取り後は振り返りや意見交換を行ってその後の看取りケアに資しており、急変時の研修も実施している。重度化対応の指針の見直しを検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防による心肺蘇生訓練は定期的に行っている。急変時の対応も実践を踏まえながらの勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近くのAコープや葬祭の協力をもらう様にしている。職員間では隣接する小規模多機能・グループホームの合同訓練を行っている。非常食、飲料水の備蓄もある。	年2回（1回は消防立ち合い）夜間想定を含む火災中心の災害訓練を隣接の小規模多機能ホームや「グループホームまごころ」と合同で実施し、災害時の通報や防火設備の取扱い等も研修している。風水害や地震対応、避難場所及び経路等を確認し災害の報道を話題にする等、防災への認識の共有に努めている。災害発生時の飲料水や食糧、介護用品等は約5日分を備蓄し、ラジオやカセットコンロ、懐中電灯等も備えている。BCPは作成済みで来年度から実施予定。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対して「ちゃん」ついで呼ばないようにしている。またスタッフそれぞれの対応で信頼を失う事がないように注意している。	毎年度接遇の研修を実施し利用者に対しては常に敬愛の気持ちでのケアに努め、尊厳や人格を傷つけることの無い、その人らしい生活となるように日常的に意見交換も行っている。ホームはプライバシーに配慮した構造になっており、排泄や入浴、更衣時の支援は羞恥心や習慣等にも配慮した言葉やケアに努めている。居室への入室時はノックや声掛けを励行する等接遇マナーに努め、選択肢も伝えながら自己決定を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴のタイミングや着替えを選んでもらう自己決定ができるように声掛けの仕方も工夫し、ご本人の決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールをもとに、ご本人のペースに合わせ声掛けしている。レクリエーションも強制ではなく興味のあるものに参加してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご本人のこだわりを十分に尊重し支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きやお茶配りなど手伝って頂くこともある。また食後の下膳など無理のない程度手伝って頂きながら、ご本人の役割をもって頂いている。	通常は昼食と夕食の副菜は法人母体の医療機関から配達され、トロミや刻み食など利用者の状態に応じた形態に努めている。行事食（おせち、敬老会、クリスマス他）は配食を中止して利用者の意向も確認しながらホームで調理し、誕生日やクリスマスのケーキ、ホールでのホットプレートを使用してのやしそば作り、園庭でのお茶、手作りのおやつ（ふかし芋、ホットケーキ他）等、食事が楽しみな物となるよう工夫し、口腔体操も行っている。利用者も食材の下処理やテーブル拭き等を楽しみながら一緒に取り組んでおり、利用者ごとに食事や水分の摂取量を把握している。	

12

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量も個人別で対応し水分などもお茶だけではなくジュースや甘くしたもの提供し水分摂取をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後に口腔ケアを実施。一人一人の口腔内確認しケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を促し、入居者様の排泄パターンを把握するようにしている。	利用者の自尊心や習慣、羞恥心等に配慮し、身体の状態やパターンに対応した支援をプランに反映させて取り組んでいる。昼間はさりげない声掛けや誘導等により可能な限りトイレでの排泄を支援しており、夜間のみポータブルトイレ（1人）やリハビリパンツ、バットの使用など利用者毎に介護用品やケアの方法を工夫している。水分の摂取量や運動等に配慮して自然排便に努めているが、状況により主治医の指示で服薬でも対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を個々で記録・把握し運動を心がけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	ご本人の同意を原則に実施している。日中の入浴に違和感があることを十分に理解し、夕方の入浴希望があれば安全に配慮し実施している。	個浴で基本週3回の入浴を2人介助も取り組みながら支援しており、状況によってはシャワー浴や清拭で保清している。入浴の順番や温度、時間、好みのシャンプー、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応してゆつくり楽しんで貰っており、毎日入浴する利用者もいる。入浴後は水分補給や保湿軟膏の塗布等を支援し、入浴を渋る利用者には無理強いしないで時間や介助者の変更、声かけ等を工夫するなど利用者の気持ちを大切にしながら支援している。入浴が職員との良好なコミュニケーションの場になっており、利用者の思いを把握する時間になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不眠時は日中でもベッドで休んでいただくようにしている。着衣や布団が汚染している時はその都度交換している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間間隔の往診に合わせて、直接薬剤師が出向き、処方の説明を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日交代で食事の挨拶をしていたり、食べ物好き嫌いを把握し提供している。またレクリエーションでは昔の話を聞いたり会話が弾むように声掛けを行うようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフの人数に余裕があればドライブに出かけている。	利用者の意向を把握し、コロナ禍やインフルエンザ等の感染予防に努めながら外気浴や周辺の散歩、ドライブによる街並みを車窓から眺め、季節の花見、他科受診、地域の祭り「おんだんこら」の見物、家族との外出等に取り組んでいる。外出の機会が少なくなっているためホームでのレクリエーションの取り組みも時節に応じた作品作りや軽い体操、ゲーム、昔の音楽や映像等、工夫してリフレッシュを図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持等本人、ご家族に同意を基に行っている。使用に関しては本人希望があればスタッフ付き添いのもと買い物に行き買えるような体制を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話は基本的に自由に使用できるようにしている。手紙も本人希望があれば支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調環境を管理したり、季節に応じた展示物や設営に力を入れている。入居者様が四季を感じるように工夫している。	ホーム全体がバリアフリーの構造で、利用者が昼間の殆どの時間を過ごす廊下やリビングは明るく余裕のある広さが確保され畳スペースも設けられており、園庭には多種の野菜を利用者と一緒に植えて楽しんでいる。整理整頓や採光、空調、換気等に配慮し、テレビやテーブルセット、ソファ、空気清浄機、加湿器等が利便性や人間関係も考慮して設置されている。季節に沿った利用者の作品やイベント時の写真、活花、季節の人形等が飾られキッチンからは調理の音や臭いも伝わり家庭的な雰囲気や清潔感のある空間となっている。利用者は好みの場所で平穏な日々を過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2～3人掛けのソファを設置し、テレビ等個別に見ることができるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の要望があれば、仏壇、家族写真などを置き、できるだけ自宅に近い環境づくりに心がけている。寝具も自宅から持ち込んで頂いている。	居室入口には意向に沿って氏名が表示されており、フローリングに腰高窓の構造で明るくエアコン、ベッド、タンス、ナースコールが備えられ、トイレ付きの居室もある。過度なケアとならないように利用者に確認しながら清掃や整理整頓を支援している。利用者は自宅からテレビやラジオ、寝具、家族写真、小物等を持ち込み、自身の作品や長寿祝いで頂いた額等も飾って家庭同様に居心地良く過ごせる環境を整えて平穏な日々を過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見当識障害などの症状がある方などに配慮し、必要に応じて居室、トイレなどの場所を明示している。職員視点にならないように、プライバシーにも十分配慮したケアを心がけている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない